

令和7年度（所属名）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
(1) 法令順守意識の向上	教育公務員としての責任を自覚し、法令順守意識の向上を図り、公務外非行や交通事故を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・県が作成している不祥事防止啓発資料等を活用し職場研修を実施した。また、県からの職員の不祥事に関する通知に合わせて、朝の打合せや職員会議等において情報提供と注意喚起を行うことで、職員が自分事としてとらえ、法令順守の意識の高揚につながった。
(2) 職場ハラスメントの防止	職員の人権を尊重し、ハラスメント行為の発生を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援グループにより外部講師を招いた職員人権研修会を開催した。具体的なケースをワークショップ形式で行い、職員同士の意見交換が活発に行われ、人権意識の向上を図ることができた。 ・今後も啓発資料等や外部講師研修会等によりさらに意識啓発、注意喚起を行っていく。
(3) 生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	生徒の人権を尊重し、ハラスメント行為の発生を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前掲の人権研修会により、生徒に対するわいせつ・セクハラ行為についても十分に理解を深め、防止の意識を高めることができた。また、教科準備室には原則生徒の立ち入りを禁止し、面談の複数対応やSNS使用禁止を徹底した。 ・県のセクハラアンケートや校内で実施している学校生活に係るアンケート調査等により生徒の声を吸い上げ、適切に対応した。
(4) 体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重して指導にあたり、体罰、不適切指導の発生を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・県の体罰アンケートや校内で実施している学校生活に係るアンケート調査等により生徒の声を吸い上げ、適切に対応した。 ・教育相談体制の組織的な運用により、生徒一人ひとりの課題等を十分に理解・把握し、チームで生徒の状況に合わせた指導を行うことができた。
(5) 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱に係る事故防止	実効性のある点検体制を再構築し、定めたマニュアルに基づき確実に業務を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜について、出願システムでの出願は3年目となるが、初心を忘れず丁寧に処理を行った。また、出願から合格発表に至る一連の業務について、昨年度の反省点を十分に検討してマニュアルを見直し、全職員で丁寧に作業を進め、業務を遂行することができた。 ・成績処理について、より効率的で確実に点検できるようマニュアルを見直し作成した。また、作業工程ごとに担当から注意喚起を行い事故防止に努めた。 ・進路関係書類の作成については、マニュアルに従って、確実に業務を進めることができた。

○ 令和7年度における不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題（学校長意見）

不祥事防止研修を職員会議等に合わせて8回開催し、テーマごとに、関係するグループの若手職員が講師となり不祥事防止研修にかかわったことで、職員がより身近に自分事としてとらえ不祥事防止への意識を高めることができた。

不祥事防止には、すべての職員が、公務員としての自覚と責任と誇りを持ち、多様な生徒の状況を理解し受け止め、人権意識を向上させることが不可欠である。次年度以降も、多くの視点から研修の機会を設けるとともに、より一層職員間の情報共有や相互理解を深めて職員同士のよりよい関係づくりに努め、生徒及び保護者、地域の方から信頼される、事故のない安全・安心な学校づくりに向け、組織的づくりを進める。